

「追想紀言」 学習の記録 令和3年4月

⑬

追想、兒九歲始蓄髮、十歲時、頂上稍長者、纔可_レ麻結、先妣乃扶病
踞_二胡床_一出_レ其少時所_二自剪_一髮少許、合而結之、以消_二病床之間_一也、
兒今言之、豈可_レ堪情、

読み

追想、兒九歲始め髪を蓄へ、十歲時、頂上が稍長_やずれば、纔_{わづ}かに麻結_{あき}び可_べし、
先妣乃ち病を扶_{たす}け胡床_{こしょう}に踞_{うず}くまる、其少時自剪_{じせん}する所、髪を少し許_{ばか}り出し合せて
之を結ぶ。以て病床の間に消ゆる也、兒今之を言ふは、豈に情堪へる可けんや、

訳

想い出。私が九歳の初め髪を伸ばし始めた。十歳の時には頭の頂上は少し伸び、
やつと麻糸で結ぶほどになった。母は、病でありながら無理に起き上がり、椅子
にうずくまって、短い時間に自分の髪を少しばかり出し、合わせてこれを結んで、
病床に帰った。私は今、これを言いながら、どうしても感情を抑えることができよ
うか。

言葉

蓄_{たく}チク タクワエ
頂_{てい}イタダキ 頭_{あたま}のてっぺん
纔_{わづ}ワズカニ やつと
扶_{たす}フ タスケル はらばう 参考 扶疾ふしつ_{ふしつ} 扶病ふへい_{ふへい} 病氣の身をさ
さえる。病氣の身でありながらむりに起き上がる。
胡床_{こしょう}コショウ 背に寄りかか_かりのある、不用の時はたたんでおくことのできる
踞_{うず}キヨ うずくまる
剪_{せん}セン キル
少時_{せうじ}しばらく
少許_{せうこ}シヨウキヨ すこしばかり

邑有_二大川_一、堰_二而灌_二之_一乎田、夏秋之間、雨水暴至、堰或敗決、乃從而修_レ之、邑人不_レ堪_二其費_一、借貸以繼_レ之、既而子本相倍、不_レ能償_レ之、邑人以爲患、先考與_二父老_一議、措置有_二方_一、漸爲_二之圖_一、未_レ終而先考卒、其方亦從而廢、竟不_レ能償、父老至_二今稱_二先考之德_一、追惜不_レ止、云、

読み

邑に大川有り、堰_{せき}してこれを田に灌_{そそ}ぐ、夏秋の間、雨水暴れ至り、堰或ひは敗決し、乃ち從_よりて之を修す、邑人その費に堪へず、借貸_{しやうたい}以て此を繼ぐ。既而、子本の相倍す、之を償ふ能はず、邑人以て患ひと爲す、先考父老と議し措置に方有り、漸く之の圖_とを爲す、未だ終わらざるに先考卒す、其の方は亦た從_よつて廢す、竟_{つい}に償ふ能わず、父老今に至り、先考の徳を稱へ、追惜止まずと。

訳

村に大きな川があつた。それを堰止めて田に水を引いた。夏から秋にかけて、雨が洪水をもたらすことがあり、堰は決壊し、そのたびにこれを修復する。村の人たちは、その費用に堪えられず、借金して費用を捻出しては、これを続けていた。やがて、元金と利息はどちらも倍にもなり、これを償うことができなかった。村人は困つた。父は村の長老たちと相談した。どうするかの方法が決まり、ようやく計画が実行されたが、まだ終わらないとき父は亡くなり、その方法は、また止めになつてしまった。ついに、借金の返済をすることができなくなった。長老たちは、今になつても、父の徳を称え、惜しむ気持ちは今も止んでいない、ということである。

言葉

邑_二ユウ_一 むら くに

堰_二セキ_一 せき

灌_二カン_一 そそぐ

決_二ケツ_一 川の水が堤を切つて流れ出る

從_二したがつて

子本_二シホン_一 利子と元金。元利

竟_二ついに